

2002年度～2003年度にわたる発達心理学概論の歩み

中京大学心理学部 古澤 頼雄^{注1}
中京大学心理学部 小島 康生
中京大学心理学研究科 酒井 由紀

"Introduction to Developmental Psychology" for novice students of psychology in 2002 and 2003

KOSAWA, Yorio (School of Psychology, Chukyo University, Yagoto-Honmachi, Showa-ku, Nagoya, 466-8666)
KOJIMA, Yasuo (School of Psychology, Chukyo University, Yagoto-Honmachi, Showa-ku, Nagoya, 466-8666)
SAKAI, Yuki (Graduate School of Psychology, Chukyo University, Yagoto-Honmachi, Showa-ku, Nagoya, 466-8666)

This report describes the development and implementation of 1-year, psychology major, undergraduate courses, "Introduction to Developmental Psychology 1" and "Introduction to Developmental Psychology 2", which were taught by the authors in the spring and fall semesters of the 2002 and 2003 school years. The contents of each lecture topic, all questions regarding end-of-term examinations, achievement score percentages and student evaluations of the course were described. In 2002, the courses were completed by 69% of the 202 students registered in the spring semester, and 82% of the 198 students in the fall semester. In 2003, 82% of the 191 students registered in the spring semester and 41% of the 160 students registered in the fall semester completed. In both school years, all lecture notes were presented in English in order to improve the English language skills of students. Although more than 80% of students were satisfied with this course, students who constantly reviewed and read the recommended references were so few that innovative lecture techniques are needed to inspire students to self-motivated learning.

Key words: developmental psychology, novice students, introductory course

この資料は、2002・2003年度に行った学部固有科目「発達心理学概論」についての授業形態・講義内容、評価方法、受講生への授業調査（全学で実施された“授業改善のための調査”資料を含む）を公開するものである。なお、2002年10月に本紀要第2号において発表した「発達心理学をいかに教えるか—2000・2001年度学部固有科目「発達心理学概論」講義を通して—」の続編でもある。

1 授業形態・講義内容

2002年度受講生は、前期202名（1年次152名、2年次41名、3年次5名、4年次4名）、後期198名（1年次152名、2年次32名、3年次10名、4年次4名）また、2003年度春学期191名（1年次118名、2年次63名、3年次7名、4年次2名）、秋学期160名（1年次108名、2年次40名、3年次7名、

4年次5名）であった。授業形態は、スクリーンにMS PowerPointによって作成した教材を提示しながら講義を行うものである。教材の提示は、一面の文章すべてを同時にスクリーン提示するのではなく、話に合わせて文章ごと画面に出すようにした。また、図表、静止画を入れ、動画によって表現することが理解を助けると判断したものについては、QuickTimeによって提示した。補助教材としては、ビデオを利用した。なお、提示教材を印刷したものを配布資料として、2003年度からは毎回の授業終了時に翌週分の講義資料を予習しておくことが出来るように全員に配布した。講義の進め方は、専門用語については英語と日本語の対応を明確になるように配慮し、取り上げている内容の理解が両方の言語を通してなされるような授業を心がけた。参考書としては、柏木・古澤・宮下「発達心理学への招待」（ミネルヴァ書房、1999）を用いた。

なお、教材の文章はすべて英文によって構成し、2003年度秋学期では、受講生の要望により配布教

注1 kosawa@lets.chukyo-u.ac.jp

材の日本語版を PDF 形式にして、学内ランから閲覧できる @cncreport により、学生がいつでもダウンロードできるようにした。教室は 2001 年度以来同じ部屋を使用している。

講義内容－2002 年前期

1) Prologue 2 コマ

ここでは、発達心理学の成立に影響した西欧社会における 4 つの流れとして、(1) イタールによるアベロンの野生児研究、(2) 社会の工業化に伴う子どもの処遇、(3) ダーウィンによる進化論、(4) ロック及びルソーによる人間観の提唱をあげて、それぞれが新たな人間理解に影響し、人間の発達を考える動機となったことを考察した。

2) The Central Questions of Developmental Psychology 2 コマ

発達をめぐる基本的問題として、「連続性」と「規定要因」を取上げた。前者については、人間とそれ以外の種ではそれぞれの心性にどのような類似性があるか、個人発達は、量的な変化か質的な変化か、発達には臨界期が存在するかなどに触れ、後者については、氏と育ちの問題について、双生児研究が明らかにしてきたことに論究した。

3) Techniques of Data Collection and Research Designs 3 コマ

発達研究におけるデータ収集について、自己報告法（質問紙調査法）、事象観察法、実験法、生理的測定法を取上げた。事象観察法については、特に観察状況の文脈を取り入れながら観察をすすめる手法、それをういた独創的な研究例を紹介した。実験法・生理的測定法については、乳児研究を進める上での寄与を研究例を挙げながら論究した。また、研究デザインとしては、横断的手法と縦断的手法に言及した。最後に、研究倫理について若干の考察を行った。

4) Evolutionary Background 1 コマ (担当：小島)

進化の歴史のなかでのヒトの位置づけを示し、生物学的な視点からのヒトの理解を促すためにこの講義を計画した。まず系統樹を提示しつつ進化史上ヒトに近縁であるとされるチンパンジーとの対比をおもに行い、直立二足歩行がサルからヒトへの進化において画期的な役割を果たしたことを解説した。また就巢性、離巢性の特徴をそれぞれ示し、ヒトがこのどちらにも属さないこと、しかしこのことがヒトの発達を理解するうえで欠かせないものであること

を説明した。

5) Sensory and response capacities and emotions in newborn and infants 3 コマ (担当：小島)

乳児期に特徴的ないくつかの反射を説明したのち、聴覚や視覚、嗅覚の特徴を実証的データに基づいて示した。なお、以上の感覚・知覚能力を調べるうえで必要とされる馴化法、選好注視法などの実験手続きについても詳しく説明を行った。次に、顔の弁別や音素の聞き分けを例に挙げ、実際上も、また脳神経科学的な知見に照らしても、周囲の環境が perceptual narrowing と呼ばれる知覚能力の限定化をもたらすこと、このことが発達上適応的なことであることを論じた。

続いて、情動の発達についての講義では、泣きに焦点を定めて、泣き方の多様性やそれに対応した情動状態について説明を加えたのち、乳児期にすでに様々な表情がみられることを、写真やビデオを示しながら解説した。さらに、以上のような乳児のもつ多様な情動が親子のかかわりを展開するうえで重要な役割を果たすことを、情動の伝染、相互同期性、情動調律を例に挙げて解説した。最後に、ベビーシエマと呼ばれる乳児の体型的な特徴について、それが生物学的な根拠をもつものであることを説明した。

講義内容－2002 年度後期

1) The End of Life—Death, Dying and Bereavement— 5 コマ

発達心理学領域であり出でこない“死”の問題を正面から取り上げている Berk (2001) を参考にした。まず、人生のそれぞれの時期において、死をどのように理解し、どのような態度をもっているか、死の不安、ひとはどのように死んでいくのか、死を迎える心理、死ぬ場所（自宅、一般病院、ホスピス）、死ぬ権利、安楽死、残されたひとの心理（自殺、事故死を含む）などについて論じた。

2) Psychosocial Development through Lifespan—Erikson's Theory— 2 コマ

人生全体にわたるひとの心理的成長を論じたエリクソンの漸成発達理論を解説しながら、それぞれの時期がひとの一生にとってもつ意義を解説し、この考えがいままさに人生を歩んでいる受講生にとってもつ経験という視点から論じた。

3) Adolescence: The Transition to Adulthood 2 コマ (担当：小島)

前回に取り上げたエリクソンの示した発達段階を

示してから、人生全体からみた青年期の位置づけや課題を解説したのち、この時期に起こる自己概念や自尊感情の発達的特徴を、データを提示しながら説明した。さらに、アイデンティティーが確立されるに至るまでのいくつかの段階や分類、その日米比較のデータを示し、アイデンティティー発達にかかわる文化その他の影響を論じた。青年期に特有の性役割の発達についても解説した。

4) Adolescence and Early Adulthood 2コマ
（担当：小島）

青年期から成人期初期にかけての対人関係の特徴について解説した。青年期に特有の問題として、徒党と群集、周囲の仲間への同調、恋愛などをテーマに挙げ、これらを解説したのち、成人期初期については、とりわけ恋愛関係にまつわる問題について詳しく説明を行った。恋愛対象がどのように選ばれるか、愛情とはどのようなものか、またそれがどう変化するかなど具体的な問題を、実証データに基づいて解説した。

5) Diversity of Adult Lifestyles 1コマ（担当：小島）

成人期のライフスタイルがじつに多様になりつつあることを解説した。具体的には、独身者、同棲生活を送るものがわが国のみならず多くの先進国で増加しつつあること、しかしこうしたライフスタイルを選択した者の精神的健康状態は必ずしも良好でないことなどが、データとして示された。結婚しても子どもを持たない夫婦が増えていること、離婚・再婚にともなう問題、同性愛者の子育てなどについても論じた。

2003年度春学期

1) Prologue 2コマ

前年度に同じ

2) The Central Questions of Developmental Psychology 2コマ

前年度に同じ

3) Techniques of Data Collection and Research Designs 3コマ

前年度に同じ

4) Prenatal Development 2コマ

「人間がどこから始まるか」をフランス国家倫理諮問委員会の「胚 (embryo) は潜在的な人である」という定義を紹介してから論じた後、発育に伴う胎児の変化と行動を静止画像と動画を提示しながら解

説した後「胎児の能力」「胎内感覚の誕生後への影響」「母体のストレスと胎児の行動」などに分けて説明した。

5) From Newborn to Infancy 3コマ

「社会参加への準備」として、新生児のもつ「原始反射」「無様式知覚」「相貌の知覚」「エントレインメント」「生氣情動」「微笑」「泣き」「選択的注視」などについて、それぞれを検討するために行われた研究例とその手法などに言及しながら、取り上げていった。「新生児の心の世界」については、「新生児の心を知る方法」「新生児の感覚のはたらき」「新生児の記憶と学習」について述べた。

2003年度秋学期

1) Language Acquisition and its Development 5コマ

言語発達について、音、語彙、文章、会話という4つのシステムに分けて解説した。音については、発声と音の弁別が変化していく過程を、語彙については、子どもが周囲のひととの文脈での獲得と抽象性理解の様相を、文章については、文法を身につけていく経過と文章理解の問題を、会話については、子どもが聞き手の立場をどのようにして理解していくかを解説した。

2) Theories of Language Development 2コマ

言語発達の理論について、学習理論については条件づけと模倣、先天性理論については、チョムスキーの考え、相互性理論については、認知発達と言語獲得との相互作用を取り上げるとともに、文法の生成がコミュニケーションの社会的進化の中で培われてきたことを説明した。

3) Emotional Development and Social Functioning 2コマ（担当：小島）

情動にかかわる問題全般を解説した。まず、情動とはどのようなものであるかを解説し、乳児期の情動発達について、基本的情動、自己意識的情動に分けてそれぞれの種類や特徴を説明した。これにつづき、他者の情動を理解する力がいつ頃から芽生え、それが発達研究のなかでどのように取り扱われているかを説明し、さらに情動制御の発達の特徴やそれに関連する文化の問題についても解説した。最後に、情動と関連して共感性の発達について論じた。

4) Gender Development 1コマ（担当：酒井）

「性差観と性別行動」を胎児の超音波映像、新生児の性別によるおとなのイメージ、子どもの性別に

よる親の関わり方、子どもの性別による親の期待などの研究例を挙げて説明し、さらに、「性別化の理論」について、社会的学習、認知発達、ジェンダー・スキーマなどの考えにそって言及してから、性差観が性差別につながる仕組みを取り上げた。

5) Thinking of Thinking 1 コマ

他者の考えを子どもがどのように理解していくか、そのことはいつ頃から可能であるか、自分が考えることと他者が考えることが違うということをもとにして知るようになるかといういわゆる“心の理論”について、研究例をあげながら解説した。また、このことに困難を生ずる発達障害の問題についても触れた。

6) College Experience and Social Development 2 コマ (担当: 小島)

大学時代に経験されることが人の発達にどのような影響をもたらすかを論じた。アイデンティティーの発達とアイデンティティー確立に至る過程について説明したのち、大学時代を含めた青年期全般の対人関係の特徴について解説した。具体的には、友人関係や恋愛関係についてや、これと関連する文化の問題を論じた。増加の一途をたどっている10代での妊娠やこれに伴う問題についても解説した。

7) Psychosocial Development in Adulthood 2 コマ

ひとの一生における成人期のもつ意味を人生を四季に例えて論じた Levinson (1996) の考えにそって解説した後、成人のにとってメンター (mentor) がもつ役割を生活の構築との関連において論じた。

2 評価方法

評価については、授業中に求めた半期1~2回のレポートについての評点と以下に記す期末試験問題によって行った。受験者数は、2002年度前期においては、182名(受講者数の90%)、後期においては、172名(受講者数の87%)であり、2003年度春学期においては、170名(受講者数の89%)、秋学期においては、133名(受講者数の83%)であった。なお、成績分布(S:90点以上, A:80点以上, B:70点以上, C:60点以上, D:不合格)は、試験問題のあとに円グラフによって示す(図1~4)。

2002年度前期末試験問題

次の文中の空欄に最も当てはまる言葉を選んで、該当する記号を記入しなさい。

- 1 Measurement of () activity is one method of discovering more about what is going on inside the body.
(a) psychological (b) pathological
(c) physiological (d) ethological
- 2 Adolf Portman, a Swiss zoologist, sees humans as fundamentally precocial mammals with an overlay of altriciality that accounts for the incomplete development or retardation of our () system.
(a) emotional (b) sensory
(c) genetic (d) motor
- 3 A key feature of culture is that it is made available to each succeeding generation through ().
(a) language (b) habit
(c) life style (d) education
- 4 If an experiment is well designed, it should provide a means of confirming a scientific () about the causes of behavior.
(a) knowledge (b) hypothesis
(c) issue (d) result
- 5 Sensitivity that infants show to the sound () in human speech appears to be essential for the acquisition of language.
(a) categories (b) pitches
(c) tones (d) waves
- 6 During most of the 20th century, stage theories of development have been more numerous and more influential than () theories.
(a) cognitive (b) discontinuity
(c) continuity (d) other
- 7 Researchers who choose a () design select a sample of the population they want to study and gather data from each person at two or more ages.
(a) cohort (b) cross-sectional
(c) longitudinal (d) experimental
- 8 Robert Fantz presented newborn infants with a schematic face and a form in which facial () had been scrambled.
(a) expressions (b) elements

- (c) angles (d) features
- 9 Psychologists who view ontogeny to be primarily a process of continuous, gradual accumulation of small changes emphasize () change.
- (a) qualitative (b) substantial
(c) quantitative (d) abrupt
- 10 () mean that the settings persons inhabit on a daily basis are related to one another in a variety of ways.
- (a) Microsystems (b) Mesosystems
(c) Exosystems (d) Macrosystems
- 11 () is the influence of the environment exerted on the individual by the social environment.
- (a) Culture (b) Nature
(c) Nurture (d) Child care
- 12 Some biologically oriented development theorists believe that the grasping reflexes are not now () but were during early evolutionary stages.
- (a) punctual (b) functional
(c) sensitive (d) elaborate
- 13 John Locke, an English philosopher, proposed the child's mind at birth is a ().
- (a) black box (b) predeterminant
(c) genotype (d) tabula rasa
- 14 Central nervous system (CNS) activity has been measured with a variety of so-called () techniques.
- (a) relaxation (b) observation
(c) brain waves (d) heart rate
- 15 Emotional contagion is defined as "the tendency to automatically mimic and () with emotional expressions of another person".
- (a) interact (b) beat
(c) synchronize (d) come up

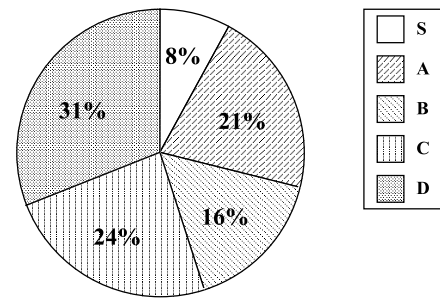


図1 2002年度前期末試験成績分布

2002年度後期末試験問題

設問ごとに3つの文章(a, b, c)がなrandeimasu。このうち内容的に明らかにおかしいと思うものを1つ選び、()内に記号を書きなさい。

- ()
 - The dividing line between life and death becomes less sharp in adolescence than it was in childhood.
 - In understanding of death nonfunctionality is the most difficult component for children to grasp.
 - Parents had not better discuss death with young children so often, because that can fuel their fears.
- ()
 - Births (Childbirths) to women in low SES who have not married by their thirties have increased in recent years.
 - Singlehood has increased in recent years, especially among young adults.
 - For people not ready for marriage, cohabitation serves as preparation for marriage.
- ()
 - Effective treatment including controlling pain is central to the hospice approach.
 - In the first stage dying people denies its seriousness to escape from the prospect of death.
 - Dying is a transition with profound personal, social, and cultural meanings.
- ()
 - When not involved in a romantic relationship, men feel lonelier than women.
 - Social clock refers age-related expectations for life events, such as getting married, birth

- of the first child, and buying home.
- c. Emotional closeness is more common in the friendships of boys than girls.
5. ()
- a. "Exploration" better describes the typical adolescent's approach to identity formation.
- b. Early adolescence is a period during which gender stereotyping of attitudes and behaviors increases.
- c. Identity-foreclosed individuals lack clear direction.
6. ()
- a. Erikson held that the main theme of life is the quest for identity, which he conceived of as the stable core of personality.
- b. Erikson called the psychological conflict of adolescence identity versus confusion.
- c. According to the Erikson's theory, a sense of basic trust - as opposed to a sense of inferiority becomes the critical theme in infancy.
7. ()
- a. In early adulthood, many people brush aside thoughts of death.
- b. Although mental health in adulthood is not related to death anxiety, physical health clearly is.
- c. Gratifying, close interpersonal ties seem to help people develop a sense of symbolic immortality.
8. ()
- a. In the phase of "avoidance", the bereaved person begins to confront the reality of the loss of the loved one.
- b. Mourning is the culturally specified expression of the bereaved person's thoughts and feelings.
- c. The death of a child brings special grieving problems because children are extensions of parents' feelings about themselves.
9. ()
- a. In homosexual families, parent-child bonds are hard to establish.
- b. Recently the rate of the couples who choose not have children is thought to increase in Japan.

- c. Many single people go through a stressful period in their late twenties.
10. ()
- a. Cliques offer models for how to interact with the other sex and chance to do so without having to be intimate.
- b. Two characteristics teenagers stress as the meaning of friendship are intimacy and conflict.
- c. Loneliness can motivate young people to take social risks and reach out to others.

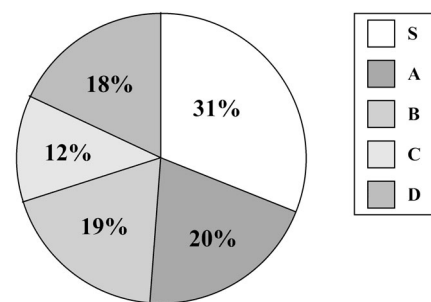


図2 2002年度後期末試験成績分布

2003年度春学期末試験問題

各問の選択文の中から、文章を完成させるのに最も当てはまるものを一つ選び、その記号を右端の四角の中に入れなさい。

- Q1 Cross-sectional research on child development always involves
- a. use of an experimental group and a control group.
- b. following a single child's development over a period of years.
- c. following one cohort of children over a period of years.
- d. studying children of different ages at a single time.
- Q2 Jean-Marc Itard's work with Victor was motivated in part by Itard's belief that
- a. the boy was mentally deficient.
- b. the social environment has a significant influence on human development.
- c. the boy would prove to have a noble character, untainted by society.
- d. study of the boy would reveal certain

similarities between humans and animals, and provide important insights into the evolution of humans.

- Q3 One disadvantage of naturalistic observation is that
- a. it cannot be used as part of a longitudinal research design.
 - b. it relies heavily on children's verbal expression of knowledge (which may not reflect what they actually know).
 - c. subjects may change their behaviors if they know that they are being studied.
 - d. it may confound age-related changes with characteristics particular to a specific cohort.
- Q4 The idea that humans have evolved from previously existing species is associated with the work of
- a. Charles Darwin.
 - b. Jean Piaget.
 - c. Lev Vygotsky
 - d. Jean-Marc Itard
- Q5 Use of a control group is most closely associated with which of the following forms of data collection?
- a. experimental methods
 - b. naturalistic observation
 - c. clinical interviewing
 - d. self-reports
- Q6 The decreases in fetal movement that occur between 24 and 32 weeks after conception is associated with
- a. the development of the higher regions of the brain.
 - b. the development of sexual differentiation.
 - c. the transition from endogenous to exogenous types of fetal activity.
 - d. the development of the fetus's sensory capacities.
- Q7 According to the differentiation approach to emotional development, newborns express only two basic emotions at first:
- a. contentment and distress.
 - b. interest and fear
 - c. contentment and anger
 - d. interest and disinterest.
- Q8 Activity level, adaptability, distractability, and rhythmicity are among the factors that

may be used in assessing an infant's

- a. reflexive reactions.
- b. state of arousal.
- c. emotion
- d. temperament

- Q9 By the age of six to seven months, all of the following examples of reflexes present at birth have disappeared except
- a. the Babinski reflex.
 - b. the Moro reflex
 - c. the rooting reflex
 - d. the grasping reflex.

- Q10 Which of the following describes the Moro reflex?
- a. When the bottom of the baby's foot is stroked, the toes fan out and then curl in.
 - b. When the baby is allowed to drop suddenly, the arms are thrown outward and then brought together as if to grasp something.
 - c. When the baby's cheek is touched, it turns its head and opens its mouth.
 - d. When something is pressed against the baby's palm, the baby's fingers close around it.

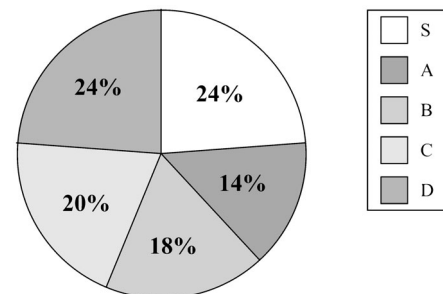


図3 2003年度春学期末試験成績分布

2003年度秋学期末試験問題

Choose three from the following five questions and reply to each. Don't forget to fill in the number of the question at the top of your answer.

- 1 Describe the young child's theory of mind.
- 2 Though people around the world associate photographs of different facial expressions with emotions in the similar way, some of the facial expressions are evaluated differently across culture. Explain how these cultural differences

emerge.

- 3 There are three theories that explain the development of gender role; (1) social learning theory, (2) cognitive developmental theory and (3) gender schema theory. Describe the difference between (1) and (2).
- 4 Describe the impacts college experiences have on development of identity.
- 5 "Generativity" is a key concept which Erikson elucidated the psychosocial development in adulthood. Illustrate what generativity means, giving example (s) of the life events most middle-aged adults experience.

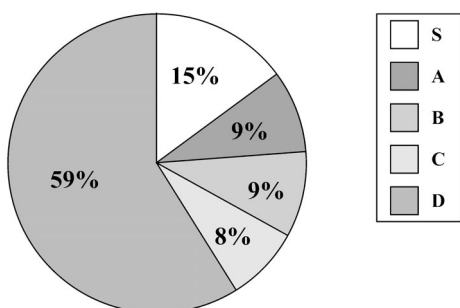


図4 2003年度秋学期末試験成績分布

3 受講生への授業調査

年度末期末試験の際に、授業調査用紙を受験者全員に配布し、学部事務室に設けた回収箱に自主的に投函してもらった。以下に各設問とそれぞれに対する選択肢別回答者数と自由記述項目に対する回答を掲載していく。

2002年度提出者は110名で、受験者の64%、2003年度提出者は78名で、受験者の59%であった。以下、両年度ともに共通している設問に対する回答のグラフを、図5-1として2002年度のもの、図5-2として2003年度のを以下に示す。

1. この授業を受講した感想を尋ねます。各項目の選択肢のいずれか一つに○印をつけてください。
 - a 非常にそう思った
 - b どちらかというそう思った
 - c どちらとも言えない
 - d どちらかというとは思わなかった
 - e まったくそうは思わなかった

1) 関心をもって受講できた

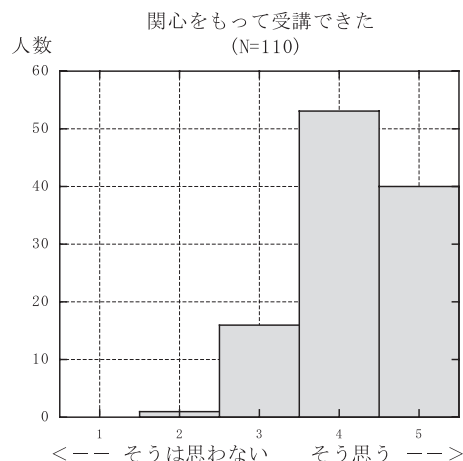


図5-1

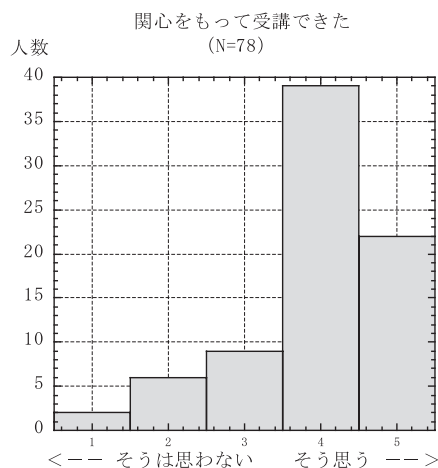


図5-2

2) 英語が不得意なので、とてもついていけなかった

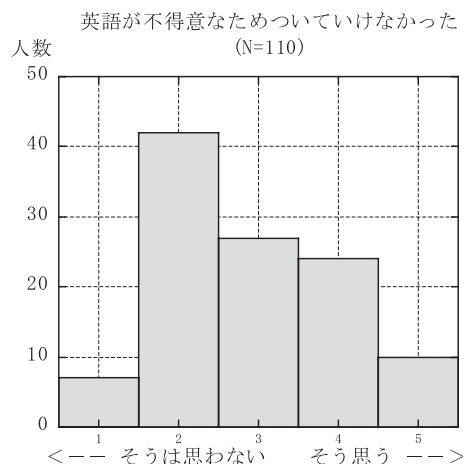


図6-1

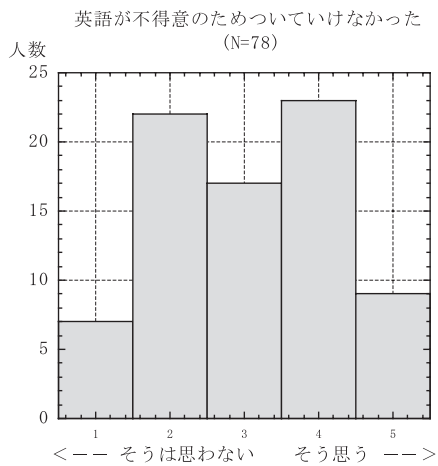


図 6-2

3) 提示やプリントが英文であることによって、英語上達への意欲がわいた

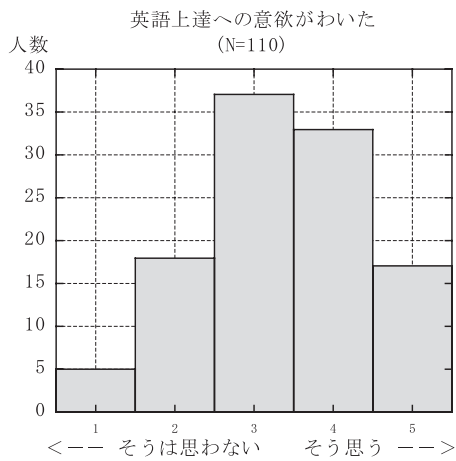


図 7-1

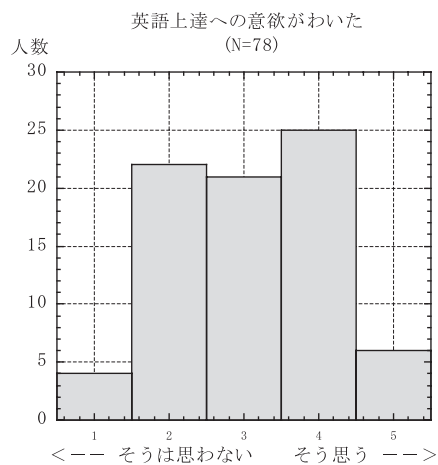


図 7-2

4) プリントを読んでいるうちに、講義が進んでしまうことがしばしばあった

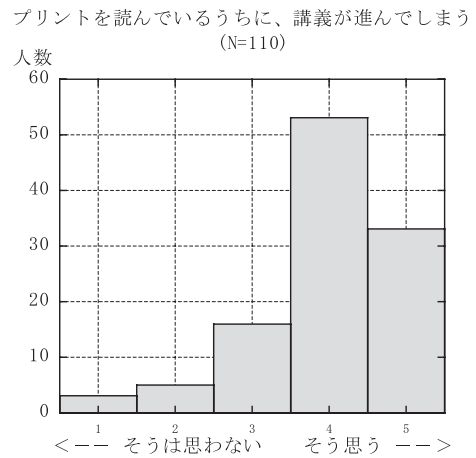


図 8-1

プリントを読んでいるうちに、講義が進んでしまう

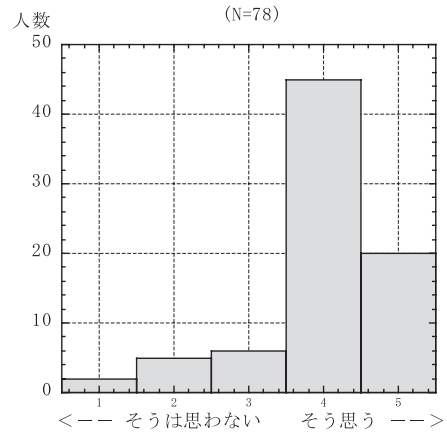


図 8-2

5) 発達心理学に魅力を感じて、もっと学んでみたいと思った

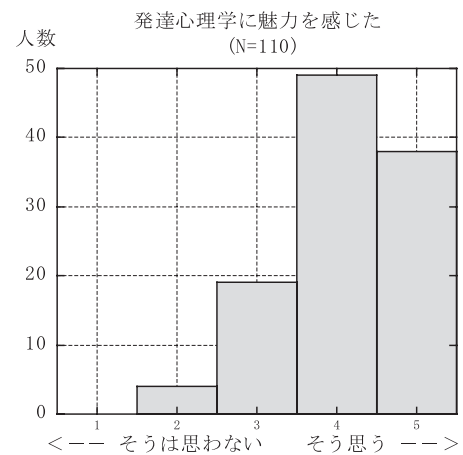


図 9-1

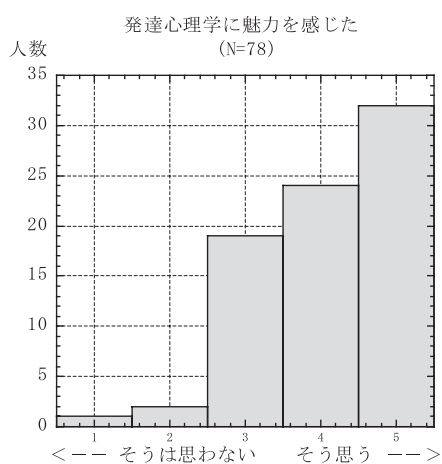


図 9-2

2. あなたは、この授業を受けたのが動機になって、自分の英語の力を高める努力をしていますか。「はい」「いいえ」のいずれかを○印で囲んでください。

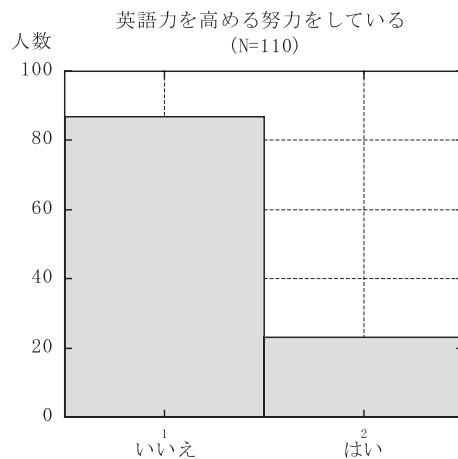


図 11-1

6) 自分に役立つ内容だった

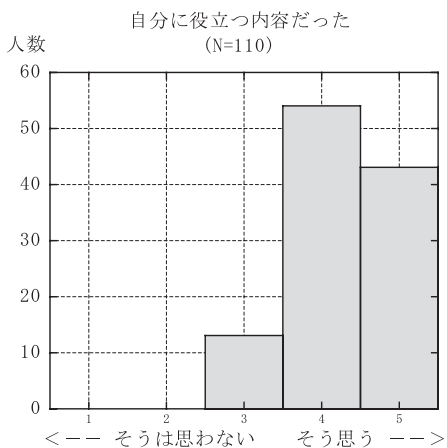


図 10-1

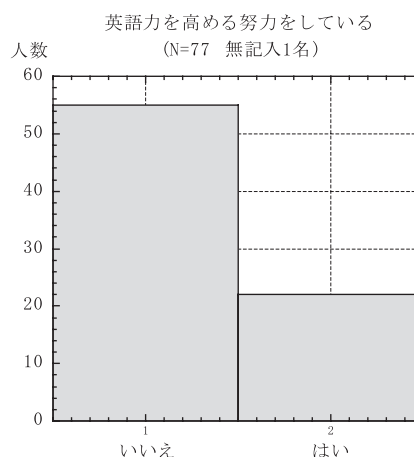


図 11-2

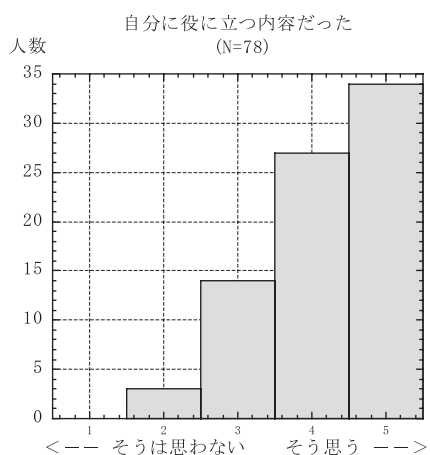


図 10-2

「はい」に答えた場合、具体的にどのようなことですか。

(2002年度)

- 英文を読む
- 英語の本を買って、読んでいる (2人)
- 英語の物語を読んでいる
- 大学入試用の問題集を解く (4人)
- 英語のヒアリングの練習
- 必須英語の予習をやっている
- 予習、復習をしている
- 洋楽を聴くようになった (2人)
- 洋画を見るようになった
- テレビの英語番組を見ている
- TOEICの学習を行っている (3人)

TOEFL の勉強を行っている
 英検等の受験
 英英辞典を使うようになった
 以前より英和辞典を引く回数が増えた
 心理学の専門用語を覚えるようにしている (2人)
 単語の勉強
 他の英語の授業に対して意欲的になった
 なるべく毎日英語に触れるようにしている (2人)
 (2003年度)
 心理専門用語や文脈に沿った訳語を覚えるなど
 TOEIC (2)
 TOEFL (2)
 とりあえず英語に多く触れようとしています
 洋書などを読む (3)
 英検
 問題集などをした (3)
 単語を覚えた (3)
 長文を読みました (3)
 なるべく辞書を使わずに意味を読み取ろうとしている
 心理学専門の用語が載っている辞書を買ひ、それで
 意味を調べるようになった
 予習の時間を多くとった

3. この授業についてのあなたの学習量を尋ねます。
 「はい」「いいえ」のいずれかを○印で囲んでください。
- 1) 配布されたプリントをもとに復習 (テスト勉強を除く) をしましたか。

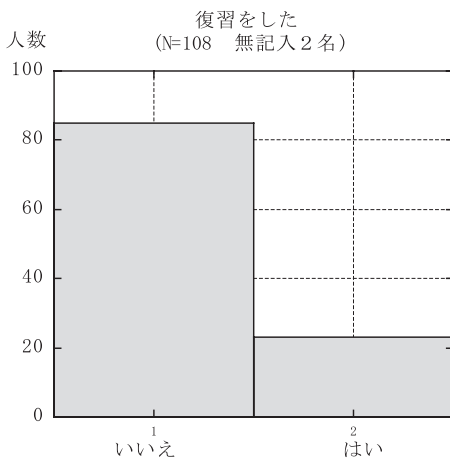


図 12-1

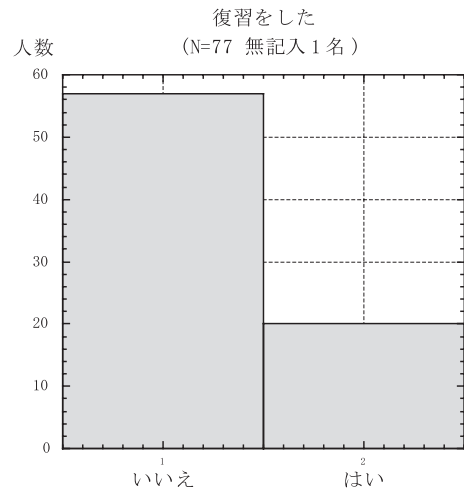


図 12-2

「はい」に答えた場合、その時間数はおよそ週何時間でしたか。(週 時間位)

(2002年度)

0.5時間 (4人) 1時間 (13人) 2時間 (3人)
 3~4時間 (1人) テスト前のみ2時間 (1人)

(2003年度)

0.2時間くらい (1人), 1時間くらい (9人), 1.5時間くらい (1人), 2時間くらい (4人), 3時間くらい (2人), 8時間くらい (2人), 10時間くらい (1人)

- 2) 授業でわからなかったことを担当の教員や友人に尋ねたり、自分で調べたりして、解決しましたか。

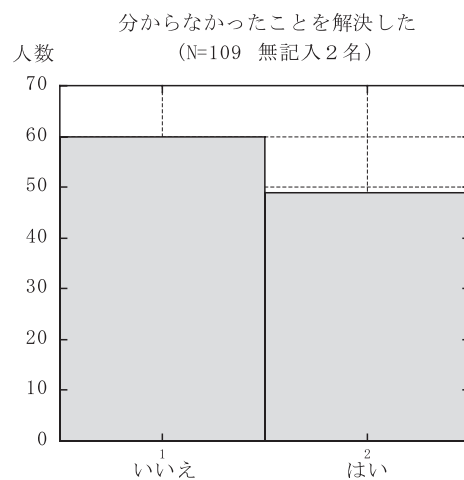


図 13-1

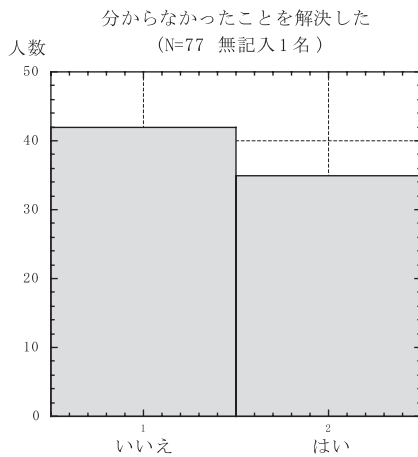


図 13-2

3) 関連する図書を読むように心がけましたか。

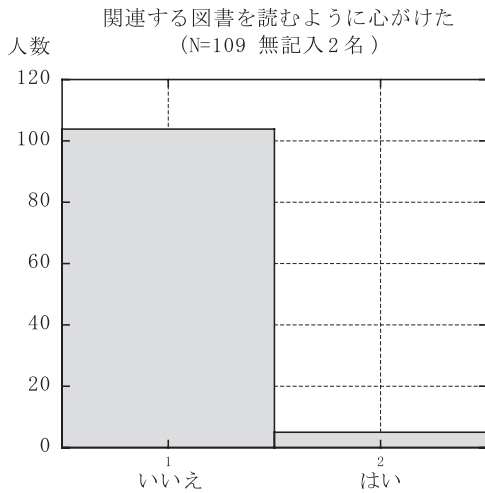


図 14-1

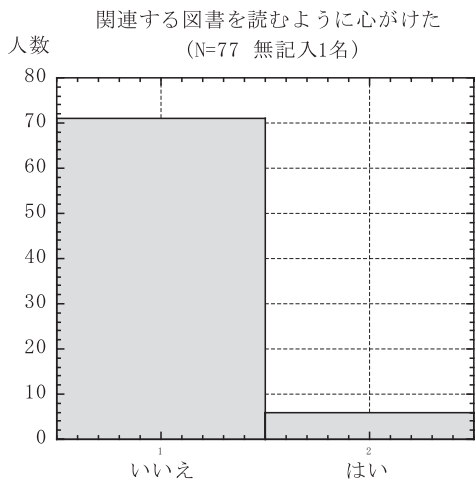


図 14-2

4. この授業についての感想・要望などを自由に書いてください。

(2002年度)

どの授業よりも静かだった (2人)

参加学生の意欲が高かった

集中して受けるに値する講義だったと思う

授業内容はとても面白かったし、わかりやすかった (17人)

先生の言葉がわかりやすかったので、英語でも理解することができた

もっと深く学びたいと思った

自分の過去のことを思い出したりして、とても興味深かった (2人)

発達心理学に興味を持ちました (7人)

一番興味をもって受けた講義だった

自分に身近なことを詳しく学ぶことができてよかったと思っている

発達段階で「死」というものがテーマになるのは仕方がないけど、少し怖かった

今まで「死」をしっかりと考えていなかったが、この講義を受けてすごく考えさせられた (4人)

英語が苦手で大変でした (3人)

1限目からはやめてほしい (7人)

大事な箇所は黒板を使って、もう少しゆっくりと説明してほしい (2人)

英語を訳すことが多くて、先生独自の経験や話が少なかったのが残念だった

小島先生をもっと出してほしかった

古澤先生のパソコンさばきはすごかった

英語での授業はとてもよかった (3人)

文章をいっているのか、まとめをいっているのかあまりよく分からなかった

書くところが少ないので、もう少しどうにかしてほしい

英語の力もついた

講義のプリントの訳語がほしい (2人)

日本語で講義を受けたい (2人)

英語が苦手なため、授業に対してやる気をなくしてしまった

小島先生は進む量が多いので、復習が大変になる (3人)

英語の授業だと訳すことに力を入れてしまい、内容まで力がまわらない

もう少しゆっくりと授業を進めてほしい (5人)

英文を読む前に授業が進むのであまり英語を理解で

きなかった

後期は前期に比べて進むのが早かったように思えたので、平等にしてほしい（3人）

自分の家族について客観的に見れるようになった
パソコン中心の授業ではなく、教科書や黒板を使ってほしい

先生によってプリントの大きさが違うので統一してほしい

英語を訳せばいいものではないと思う

映像等の授業はよかった

専門用語だけでも日本語訳がほしかった

予習をしたいので次週のプリントを配布してほしい
幼児・老人について関心がわきました

内容が身近に感じられた

（2003年度）

（英語について）

英語は難しい。（2人）

内容はとても興味深く面白かったけど、英語で学ぶ意味がどうしてもわかりません。日本語のテキストの方がよりわかりやすく真剣に取り組めると私は思います。訳に必死で発達心理学の理解にまで至らないことがしばしばでした

英語についての知識は増えた気がする。また、授業ごとに概要を簡潔にまとめたプリントやレジュメ等があると便利だと思った。また、スクリーン使用のため前の方の席に座れないのが少し不満（暗くてあまり文字が見えない。特に電子辞書。後ろだと少々騒がしい。）

英語で学べてよいと思う（4人）

英語が本当に苦手で、長文が全く読めないので訳が無ければ勉強しませんでした

英語が苦手な私には、授業のスピードについていくのは、少し無理がありました。勉強をあまりしない私も悪いのですが…

英語なので大変だとは思いましたが、心理学は英語が必ずいるので1,2年のうちからこうして読めるのは大変良いことだと思います

英語の表現もあってか理解しにくいところもあった先生の授業は英語だったので、読んでいる最中に次に授業が進んでいってしまったりしました。しかし、cnc@reportを準備してくれたりなど、前期よりもわかりやすく、熱心に勉強できたと思います
英語的な表現が面白くて、興味がわきました。授業もわかりやすかったです

（授業について）

この授業を受けて発達心理学に興味を持ちました（6人）

とても難しい講義だと思った（2人）

授業の進め方は内容が理解しやすくてよかった
とても親切に授業をしてくれてありがとうございます

必修の心理学概論でやった内容が出てきたりするとうれしかったです

本当に良い授業だったと思う。ただ自分のやる気と努力が足りなかった

進むペースがやっぱり速いと思う

この授業を通し、何を専攻したいのかがはっきりとしたものとなりました。ありがとうございます。

あまりにうるさい時以外は注意を少し減らして欲しいです

授業のテンポというか、ちょっとその時間が惜しいです

受動的すぎたなと思う

もっと意欲的にやらなければいけなかった

とても面白かったです。授業内でみたビデオも興味深いものでした。ただ少し難しいなぁというところや、用語の意味がわからないところがあったので、もう少し詳しく説明があるとうれしかったです

関連する本を読んだりはしていませんが、発達心理学特論1・2を受講していたので、両方の授業内容で補えるところは補ってみたり、同じ内容のところのときは復習をして講義を聞くことができたりしたので、興味ある内容であるならば、色々な文献を読んでもっと積極的に授業に取り組めばよかったと、いまさらながら自分の学習方法に後悔しています

（プリント・パワーポイント・ビデオについて）

プリントの内容は個人的に面白く感じました

プリントで文字の背景が黒のドットだと文字を書き入れてもみにくくなってしまうので、背景は白が望ましかった（2人）

日本語訳は大変助かった

スクリーンの字がたまに読みにくかった（バックの色のせいで）

できればプリントと一緒に日本語訳を配布して欲しい（2人）

予習分として予め渡してもらえると自分で一度日本語にして内容を大体把握できるので、授業内容の理解が深まると思いました

最後のビデオが印象深かった

(テストについて)

発達心理Ⅱのテストが難しすぎます (2人)

テストは前期の選択形式よりも記述式の方が良い。

用語より、内容が理解できるから

(その他)

朝起きるのが辛かった (3人)

良い意味で厳しい授業でした。先生の熱意が伝わりました (3人)

とても満足している

5. 次の問は、将来の進路に関することで授業と直接関係がありません。「はい」「いいえ」のいずれかを○印で囲んでください。

1) あなたは大学院進学を考えていますか。

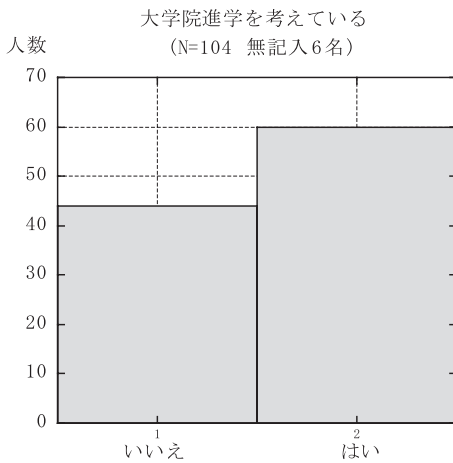


図 15-1

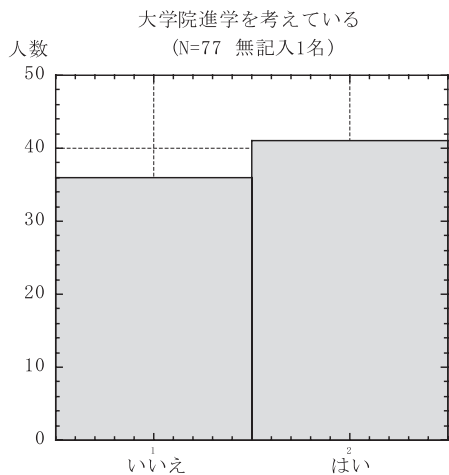


図 15-2

2) あなたは海外への留学を考えていますか。

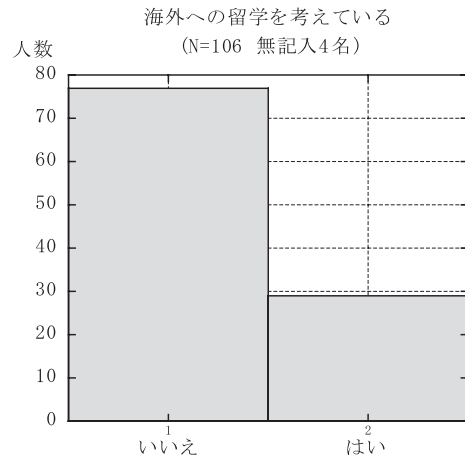


図 16-1

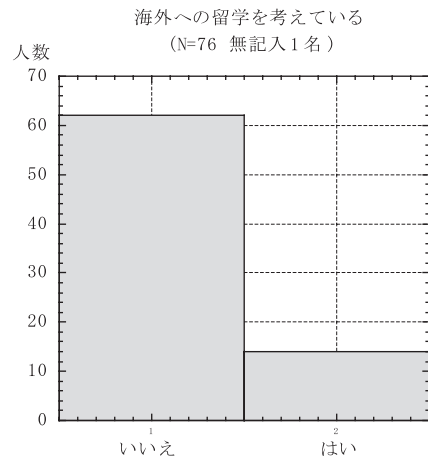


図 16-2

「はい」に答えた場合、留学先、勉学する内容などを書いてください。

(2002年度)

イギリスで英語を学びたい

イギリスに、ファッションや建築物についての勉強のため

アメリカで語学を学びたい (3人)

アメリカで、臨床心理学を学びたい (4人)

アメリカで、犯罪心理学や臨床心理学を学びたい

アメリカに、カリフォルニア州立大学(パークレー校)に留学したい

アメリカに行って犯罪心理学を学びたい

アメリカに行きたい (2人)

アメリカで、言語学や心理学を学びたい

アメリカ・中国に留学したい

大学のカリキュラムを利用しハーバードへ行って、

アメリカの心理学へ触れてみたい
 オーストラリアで、文化の違いや学生の物事に対する考え方などを知りたい
 ニュージーランドで、海外文化に触れたい
 ニュージーランドへ留学したい
 行き先は決めていないが、海外で臨床心理学を学びたい (2)
 海外で、語学や臨床心理学・犯罪心理学を中心に心理学の勉強したい
 海外で犯罪心理学を学びたい
 海外で、母子関係を中心とした心理学を学びたい
 海外留学演習の授業を取り、臨床心理学、特に自傷に関して、学びたい
 在学中アメリカ・イギリスなどに語学留学して、大学院在学中または卒業後、心理学を学びに海外へ留学したい
 機会とお金があれば、海外で英語と発達心理学を学びたい

(2003年度)

アメリカ (4人)
 カナダ (2人)
 イギリス
 オーストラリア (3人)
 英語圏のどこか (2人)
 発達心理学を勉強したい
 語学留学 (5人)
 犯罪心理学
 教育心理学

3) あなたは将来の職業を考えていますか。

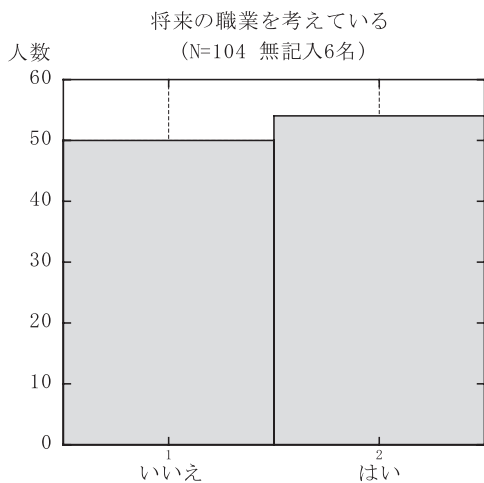


図 17-1

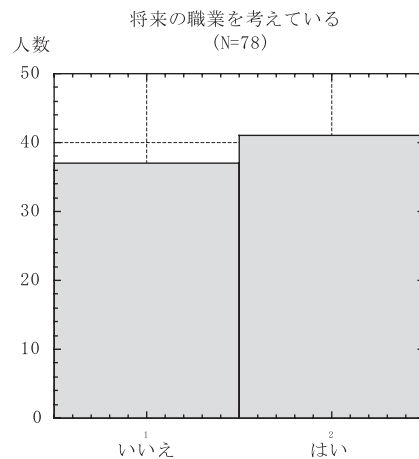


図 17-2

「はい」に答えた場合、具体的にどのような職業ですか。

- (2002年度)
- 色彩関係
 - 心理学を活かすことのできる職業 (2人)
 - 青少年関係のカウンセラー
 - 児童相談員, 照明関係, 老人ホームの職員など
 - これからの大学生活で見つけない
 - カウンセラーをやりたいが、大学生活で変わるかもしれない
 - 少年院, 施設の職員
 - 教員 (3人)
 - 言語聴覚士
 - 臨床心理士 (5人)
 - 心理カウンセラー (4人)
 - 法律系
 - 犯罪心理学が活かせる職業
 - 心理職では無く, 一般企業
 - 漫画家
 - スクールカウンセラー (7人)
 - 子供たちに夢や希望を与える仕事
 - 発達心理学系の研究者
 - 児童相談員 (虐待に悩む親や子供を助けない)
 - 病院のカウンセラー
 - 産業カウンセラー又は, 人事部, 総務部での職業
 - 警察官 (2人)
 - 公務員 (2人)
 - 研究者又は, アーティスト・スタイリスト・セレクトショップの店員
 - ベビーシッター
 - 裁判所や警察官など少年犯罪に関わる仕事

一般企業で商品企画をしたい
 児童福祉士 (2人)
 児童相談所や学校カウンセラー
 子供に関わる仕事 (2人)
 臨床関係
 診療内科等病院のアシスタント等
 セラピスト
 カウンセラー関係
 研究者, 教授
 学者
 (2003年度)
 カウンセラー (4人)
 スクールカウンセラー (4人)
 育児カウンセラー
 児童相談員, 思春期相談員
 病院関係 (3人)
 教員 (4人), 養護教員
 公務員 (3人)
 心理職 (3人)
 企画関係
 広告代理店
 障害者施設 (2人)
 サービス業
 書店, 出版社
 法務教官
 広告デザイナー
 営業関係
 臨床心理士 (3人)
 NPO・NGO 関係
 雲水
 心理関係
 児童福祉司
 直接人と関わる仕事
 海外で子ども相手のボランティア
 臨床発達に関わるような仕事

参考資料その1

2003年度秋学期に行われた全学実施“授業改善のための調査”結果である。履修者数161名に対して、回答者は67名で回答率は、41.6%であった。全学共通の質問14項目に対する選択肢別の回答率(%)は次に示す通りであった。

表1 授業改善のための調査 項目別回答率(%)

質問項目	強く思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全く思わない
積極的に授業に出席し、意欲的に学ぼうとした。	11.9	55.2	25.4	7.5	0.0
授業外での予習・復習, 関連する情報の入手など自主的に学習に取り組んだ	6.0	29.9	43.3	17.9	3.0
自分なりに考えてみるきっかけを持てた。	29.9	61.2	6.0	3.0	0.0
授業中の学生たちの態度がよくなかった。	1.5	7.5	34.3	38.8	17.9
講義内容に魅力を感じた。	32.8	47.8	17.9	1.5	0.0
自分にとって有意義な内容だった。	32.8	50.7	13.4	3.0	0.0
提供された教材は適切だった。	20.9	59.7	11.9	7.5	0.0
成績評価の基準について明確な説明があった。	16.4	38.8	35.8	9.0	0.0
シラバスの内容は自分の学習を進める上で役に立った。	6.0	28.4	47.8	13.4	4.5
よく理解できないことがしばしばあった。	1.5	35.8	25.4	32.8	4.5
この授業に全体的に満足している。	22.4	55.2	16.4	6.0	0.0
黒板やOHP等にかかれた文字は読み取りやすかった。	25.4	58.2	13.4	3.0	0.0
授業に対する担当教員の意欲を感じた。	34.8	56.1	7.6	1.5	0.0
教員と学生のコミュニケーションは活発であった。	6.3	10.9	42.2	35.9	4.7

参考資料その2

図18は、2004年4月現在で心理学部で実施されている発達心理学領域カリキュラムの構成を示したものである。2003年度秋学期の授業最終回で、今後の履修方針を受講生が考えるために提示した。

学部年次

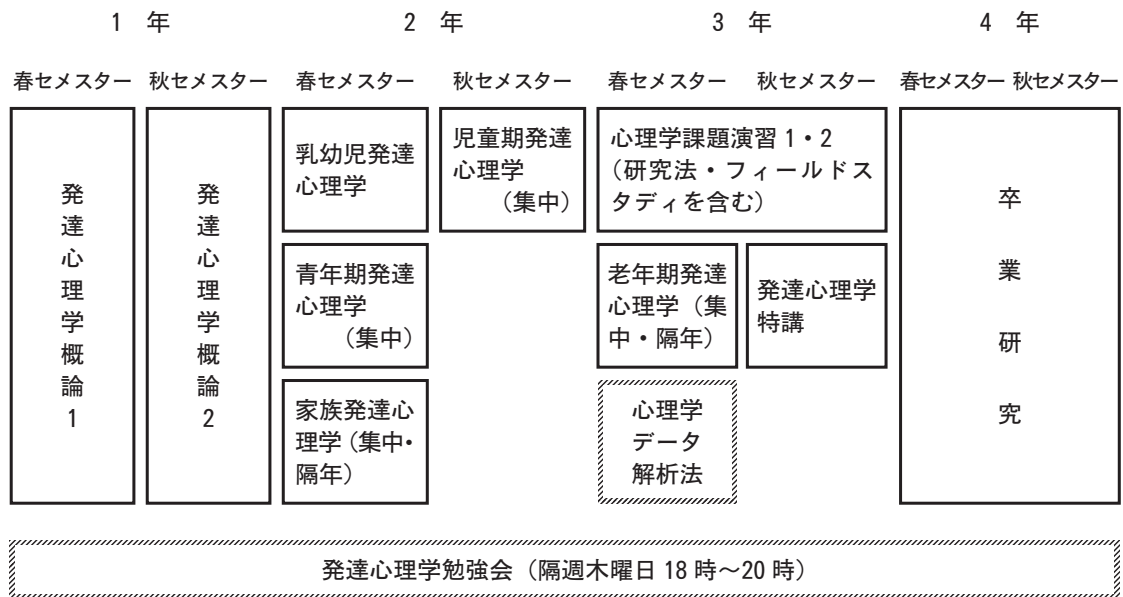


図 18 発達心理学領域カリキュラム構成

参考資料その 3 講義準備のために用いた主な参考書・

映像資料

- Atkinson, R. L., Atkinson, R. C., Smith, E. and Bem, D. (1993) Introduction to Psychology. 11th edition. Harcourt Brace College Publishers.
- Atinson and Hilgard
- 新井邦二郎 (編著) (1997) 図でわかる発達心理学 福村出版
- Baron, R. (2001) Psychology. 5th edition Allyn and Bacon.
- Berk, L. (2001) *Development through the Lifespan* 2nd edition Allyn and Bacon
- Berk, L. (2004) *Development through the Lifespan* 3rd edition Allyn and Bacon
- Blair-Broeker, C., Ernst, R. and Myers, D. (2003) Thinking About Psychology: The Science of Mind and Behavior. Worth Publishers.
- Cole, M. and Cole, S. (1999) *The Development of Children* 3rd edition Worth Publishers
- Cole, M. and Cole, S. (2001) *The Development of Children* 4th edition Worth Publishers
- ダンバー, R. (1998) ことばの起源: 猿の毛づくろい、人のゴシップ 青土社
- Dixon, R. and Lerner, R. (1999) History and systems in developmental psychology. (In.) Bornstein, M. and Lamb, M. (Eds.) *Developmental Psychology: An Advanced Textbook*. Lawrence Erlbaum Associates, 8-45,

- Gleitman, H., Friedlund, A., and Reisberg, D. (2004) Psychology. 6th edition, Norton & Company.
- Graham, T. (2001) Teaching child development via the internet: Opportunities and Pitfalls, *Teaching of Psychology*, 28, 1, 67-71,
- 繁多進 (編著) (1999) 乳幼児発達心理学 福村出版
- Harris, M. and Butterworth, G. (2002) *Developmental Psychology: A Student's Handbook*. Psychology Press.
- 板倉昭二 (1999) 自己の起源 金子書房
- 伊藤裕子 (2000) ジェンダーの発達心理学, ミネルヴァ書房
- 川本敏 (編著) (2001) 論争・少子化日本 中公新書ラクレ
- 柏木恵子・古澤頼雄・宮下孝広 (1996) 発達心理学への招待 ミネルヴァ書房
- 久保田競 (1986) 心のしくみと脳の発達 朱鷺書房
- 松井豊 (1993) 恋ごろの科学 サイエンス社
- 松沢哲郎 (1995) チンパンジーはちんぱんじん 岩波ジュニア新書
- 正高信男 (1993) 0歳児がことばを獲得するとき 中公新書
- 正高信男 (2001) 子どもはことばをからだで覚える 中公新書
- 無藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦 (1995) 発達心理学 現代心理学入門 2 岩波書店
- 森永康子 (編著) (2003) はじめてのジェンダー・スタディーズ, 北大路書房
- 根ヶ山光一 (2002) 発達行動学の視座 金子書房

- 根ヶ山光一 (1995) 子別れの心理学 福村出版
中道正之 (1999) ニホンザルの母と子 福村出版
Rogoff, B. (2003) *The Cultural Nature of Human Development*. Oxford University Press.
Slee, P. and Shute, R. (2003) *Child Development: Thinking About Theories*. Oxford University Press.
Smith, E., Nolen-Hoeksema, S., Fredrickson, B. and Loftus, G. (2003) *Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology*. 14th edition Wadsworth.
荘巖舜哉 (1994) 人間行動学 福村出版
荘巖舜哉 (1997) 文化と感情の心理生態学 金子書房
鈴木りえ子 (2000) 超少子化—危機に立つ日本社会 集英社新書
Valsiner, J. (1998?) The development of the concept of development: Historical and epistemological perspectives. (In.) Damon, W. and Lerner, R. (Eds.) *Handbook of Child Psychology. Vol. 1 Theoretical Model of Human Development*. John Wiley
Valsiner, J. (200) *Culture and Human Development: An Introduction* Sage Publications.
Valsiner, J. (Ed.) (2003) *Handbook of Developmental Psychology*. Sage Publications.
Zimbardo, P., Weber, A., and Johnson, R. (2000) *Psychology*. 3rd edition. Allyn and Bacon.

映像資料

- NHK 編 (1995) 生命：40億年はるかな旅 第2集 進化の不思議な大爆発
NHK 編 (2000) 未知なる生命ヒト 第3集 最初の冒険
NHK 編 (2000) 未知なる生命ヒト 第5集 脳の神秘
NHK 編 (2000) 未知なる生命ヒト 第8集 ハービー安らかに
NHK 編 (2000) 世界の子育て 第2集 はじめての言葉
Zimbardo, P. (編) 肥田野 直 (監修) 心理学への招待 第5巻 子供の発達
Zimbardo, P. (編) 肥田野 直 (監修) 心理学への招待 第6巻 言語の発達
Zimbardo, P. (編) 肥田野 直 (監修) 心理学への招待 第17巻 ジェンダーと性別

(受理年月日 2004年3月10日)